

【参考資料】平成22年度 実績報告（白川町森林組合）

作成日：平成23年4月28日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	50ha	141ha	282.0%	H23予定：67ha	
いつ	4月～3月	5月～12月	/	通年対応を基本とするが、5月中旬～8月末を強化期間とする。 集約化担当1名増員予定	組合座談会期間の後に集中実施 自治会の集会にも積極的に参加
誰が	集約化担当 澤田卓朗	集約化担当 澤田卓朗			前年度の検討を踏まえ実行
どういう方法で	個別訪問(10軒) 地区座談会(2回)	個別訪問(8軒) 地区座談会(2回)			集約化地域の研修会を積極的に開催して施業地の集約化を進める。

植栽	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.00ha	0.0%	H23予定：2ha	
いつ	11月		/	伐採作業との労務調整で効率化 森林所有者に作業実施を促す。 獣害対策等を考慮し実施する。	
誰が	森林所有者				
どういう方法で	小面積皆伐にあわせて実施				

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.00ha	0.0%	H23予定：1ha	
いつ	6月		/	間伐作業との労務調整で効率化 森林所有者に作業実施を促す。 集約化調整時に除伐必要箇所等再精査する。	
誰が	森林所有者				
どういう方法で	効果の高い時期に実施				森林所有者の思いと保育上の必要性を分けて考える。

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用：33ha 切捨：4ha	利用：13.24ha 切捨：16.76ha	40.1% 419.0%	H23予定：45ha H23予定：5ha	作業路開設を先行したため、切り捨て間伐へとシフトした。
いつ	4月～3月	9月～3月	/	梅雨、降雪期間を含めて、出来る限り通年して 素材生産 素材生産担当 藤井博文	集約化の状況によって2班体制を検討し、請負業者等も含めて通年で取扱量を増やす。
誰が	素材生産担当 藤井博文	素材生産担当 藤井博文			
どういう方法で	既設道を起点に作業道を開設し利用 間伐	既設道を起点に作業道を開設し利用 間伐			施業提案書を活用し、実施箇所をモデルとした施業地を広める。 既設道路周辺に加え新規開設した作業路周辺で素材生産

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	W=3.0m,L=4,500m	W=3.0m,L=2,156m W=3.6m,L=500m	47.9% -	H23予定：W=3.0m,L=5,500m	開設費 W=3.0m 2,000円/m 森林管理路緊急整備事業
いつ	4～6月	4～9月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設 集約化担当、素材生産担当	
誰が	白川町森林組合	白川町森林組合			担当者増員と合わせて検討
どういう方法で	設計・施工・管理：森林組合直営	設計・施工・管理：森林組合直営			H23以降に基盤となる規格の高い幹線作業道の追加を検討(高密化) 加速化基金事業活用

素材生産	新規チーム設立(H20)	内容			
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		①伐倒：チェンソー → 集材：ウインチ付きグラブ(0.25) → 造材：チェンソー → 積込・運搬：フォワーダ(3.0t) → トラック(10t) ②伐倒：チェンソー → 集材：ウインチ付きグラブ(0.25) → 造材：枝払い(新規)ハーベスタ → 積込・運搬：フォワーダ(3.0t) → トラック(10t)			
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後(H21) (H22)	1チーム(4人/班)	→	1チーム(4人/班)	
実稼働日数(日)		78		148	
素材生産(m <sup>3</sup> /人・日)		3.82		3.92	
素材生産費(円/m <sup>3</sup> )	H21実績		車両系：9,400(10,000)円/m <sup>3</sup>		
年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	2,000m <sup>3</sup>	1,011m <sup>3</sup>	50.6%	森プロ関係のみ(新規導入機械による素材生産) (リース機にてハーベスタを導入) (フォワーダを1台追加導入)	集約化を着実に進め利用間伐による素材生産を確実に実施する。
モデル団地外	0m <sup>3</sup>	1,314m <sup>3</sup>	-		現場状況に応じてリース機を導入し、新規低コスト作業システムを構築する。
合計	2,000m <sup>3</sup>	2,325m <sup>3</sup>	116.3%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成(1名)	・森林施業プランナー育成研修出席(1名) ・施業提案書の活用(3件)	森林施業プランナーの育成(人数) 森林施業プランナーによる施業提案書の活用(件数)	森林施業プランナーを2名体制にする。 森林施業プランナー育成ステップアップ研修1名検討する。
先進地視察(2回)	・第2回地域森林管理・経営に関する研修会にて事例報告を行い、林業関係者よりアドバイスをもらった。(森林文化アカデミー) ・群馬県高崎市にて開催された第34回全国植樹祭記念行事2010森林・林業・環境機械展示実演会に出席。 ・第4回全国提案型施業事例発表会に出席して、モデル組合からアドバイスをもらった。	先進地視察数(回数)	・集約化施業に関する視察等研修会に積極的に参加し、課題の明確化と共有化を図るとともに、H23からは課題ごとに克服へのプロセスを箇条書きで記録するシートを作成する。
モデル団地外での普及・啓発	・集約化現地説明会を開催(4回) ・アンケート実施(245通) ・当初間伐予定のない箇所にて1,314m <sup>3</sup> の素材生産量を確保 ・白川町内で12箇所(1,199ha)の集約化実施計画書を作成 ・長期施業受託契約の締結(84件)	集落座談会、現地説明会の出席者に対するアンケート実施数(枚数) 森プロモデル林の設置数(箇所数) 長期施業受託契約数(件数)	・H22検討した集約化実施計画の実行に向けて、集約化に特化した説明会を開催する。 ・モデル林及び進行中の現場を見学してもらい、集約化・路網整備のメリットを実感してもらう。
素材販売流通システムの確立及び安定供給(森プロ取扱量の50%目標)	・県森連のネットワークシステムによる素材の試験出荷・販売を実施 2,325m <sup>3</sup> のうち287.819m <sup>3</sup> (12%)出荷	素材販売流通システムでの流通実績(森プロ取扱量の割合)	県内・地元製材業者への直送販売、県森連のネットワーク販売など、有利な販売先の確保と流通コスト削減に向けた、地域での取り組みを推進する。

【参考資料】 平成20年度 実績報告 (案)

施業集約化(ha)、植栽(ha)、下刈(ha)、除伐(ha)

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	
数量	50ha	40ha	80%	H21予定:50ha	人工 天然
いつ	4月~3月	6月~3月	/	通年対応を基本とするが、GW明け~8月末を強化期間とする 集約化担当を1名拡充予定 施業提案書を積極活用した集約化 地域研修会を積極的に開催して施業地を集約化	
誰が	集約化担当A氏	集約化担当A氏			
どういつ方法で	個別訪問(10軒) 地区座談会(5回)	個別訪問(15軒) 地区座談会(3回)			

切捨間伐(ha)、利用間伐(ha)、主伐[択伐](ha)

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応		
数量	利用:10ha	利用:20ha	200%	H21予定:30ha		
	切捨:20ha	切捨:20ha	100%	H21予定:40ha		
いつ	9月~3月	4月~3月	/	梅雨、降雪期間を含めて、出来る限り通年して素材生産 素材生産担当B氏 施業提案書を積極活用した集約化 地域研修会を積極的に開催して施業地を集約化	将来 既設 作業	
誰が	素材生産担当B氏	素材生産担当B氏				
どういつ方法で	既設道を起点に 列状間伐	既設道を起点に 列状間伐				

作業道(路)開設(W, m)

作業道(路)開設	計画	実績	達成率	今後の対応		
数量	W=3.0m,L=500m	W=3.0m,L=480m	97%	H21予定:1,000m(造林作業路) :500m(緊急管理路)	開設費	
	W=3.6m,L=1,000m	W=3.6m,L=980m				
いつ	4~5月、7~12月	5月、7~2月	/	通年(梅雨、降雪時を除く)開設 (株)作業路開設に100%外注予定 速やかな林内路網密度向上のため、作業路の開設に重点化	四万	
誰が	A森林組合	(株)作業路開設				
どういつ方法で	設計・施工・管理:森林組合直	施工のみ民間企業に外注				

利用間伐(ha)、主伐[択伐](ha)

「新規チーム設立」or「機械のみ更新」の別を記入

素材生産	新規チーム設立	内容			
新規構築作業システム(機械の組合せ、種類・規格・台数)		伐倒:チェーンソー → 集材:(新規)スイングヤーダ(0.4) → 積込:(再掲)スイングヤーダ(0.45) → 運搬:フォアヤーダ(0.45) → トラック(10t)			
素材生産チーム数(チーム員数)	実施前 → 実施後 (H19) (H20)	1チーム(3人/班)			
実稼働日数(日)		90 →			
素材生産コスト(m <sup>3</sup> /人・日)		2.3			
その他					
年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	
モデル団地内	1,500	1,280	85%	森プロ関係のみ (新規導入機械による素材生産)	事業 させ 次年 口団
モデル団地外	1,800	2,000	111%		
合計	3,300	3,280	99%		

各事業計画書に記載された事項を網羅(実施の有無にかかわらず)

計画	実績	達成度検証方法	
森林施業プランナーの育成(2名)	森林施業プランナー育成研修出席(2名) 全国提案型施業事例発表会で発表	施業提案書を積極的に活用した集約化	森 木 プ ア
定点観測写真撮影(年5箇所)	定点観測写真撮影(年5箇所)	県〇〇農林事務所HPIに掲載	定 点
地元森林所有者視察見学会(年1回)	地元森林所有者視察見学会(年3回)	アンケート実施(参加者50人)	地 元
地域イベントでの普及啓発(年1回)	H20森と木のふれあいフェアにてPR	会場アンケート実施(回答500枚)	同 イ
NPO等と森の健康診断実施(年2回)	NPO等と森の健康診断実施(年1回)	B新聞(H20.〇.〇〇朝刊)掲載	N P O
作業路管理手法の仕組み構築(協力金の徴収・森林組合での管理)	関係者との検討会の開催(年2回)	市町村森林管理委員会等へ進捗状況を定期的に報告	H 2 2 者 と

森林所有者への森林状況通知(年1回)	森林組合だより発送(年4回)	総会時に組合員へ個別聞き取り	森林
その他			



所有者への森林状況通知(年1回)